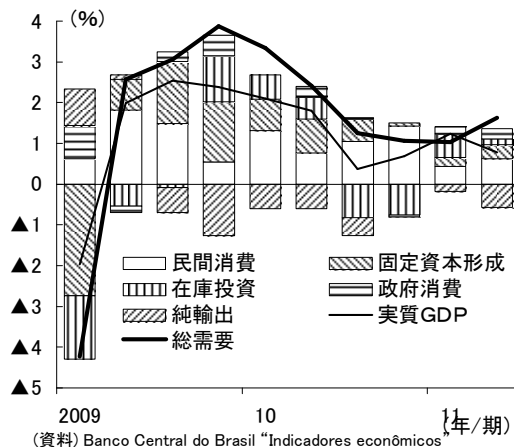


ブラジルは強過ぎる内需で4～6月期成長鈍化

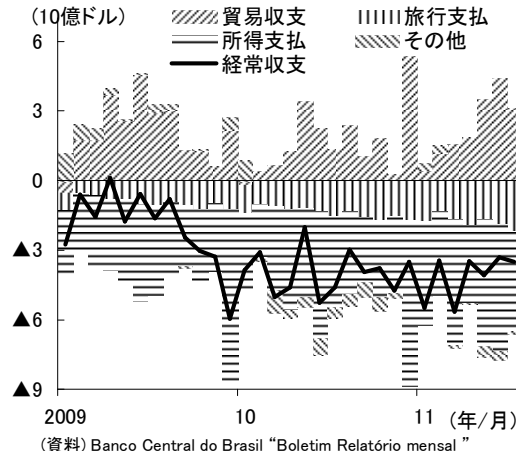
～ 輸入増で総需要の増加が減殺 ～

- (1) 9月2日に発表された本年4～6月期のブラジル実質経済成長率は前期比0.8%と、前期の同1.2%から鈍化（図表1）。世界経済の減速が反映され、今後、鈍化傾向が強まるとの見方が大勢。しかし、成長鈍化は輸入拡大が主因。輸入を差し引いた実質総需要でみると、昨年央以来の1%強から4～6月期1.6%へ加速。内需、とりわけ消費が増加。実質総需要でみれば、4～6月期の成長ペースは年率6%強。
- (2) 強過ぎる内需による輸入拡大は国際収支にも投影（図表2）。財貿易では11年に入り、再び黒字拡大に向かうなか、旅行支払いが09年来ほぼ月を追って増加。本年7月には22億ドルと初めて20億ドル台乗せに。なおリーマンショック以後、急拡大した外資の本国送金は、昨年半ば以降、沈静化に向かう兆しもみられたものの、本年入り後、再び活発化。
- (3) 自動車や二輪車販売でも昨年末来、急速な増勢に翳りが広がる動きがみられたものの、直近8月の販売動向をみると、再び増勢回復の兆し（図表3）。ハイペースの賃金増加と着実な雇用増加によって所得雇用環境の改善が近年、ほぼ一貫して続くなか、本年初来、みられた消費の翳りは消費者のマインド慎重化に起因する公算大。そこで消費者信頼感の動向をみると、年初から春にかけて水準低下（図表4）。急速なレアル高や財政リスクを抱えた欧米経済の先行き不透明感の強まりを受け、とりわけ将来に対する消費者マインドが低下。しかし6月以降、再び上昇へ。
- (4) 以上を要すれば4～6月期の成長率鈍化は内需、とりわけ消費拡大で輸入が増加した結果。需要の増勢は一段と加速。ブラジル経済は、今後成長ペースを次第に鈍化させるのではなく、むしろ引き続きハイペースの成長軌道を進む公算大。

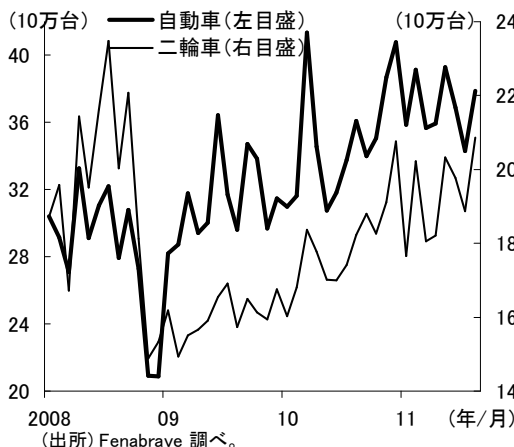
（図表1）ブラジル実質経済成長率（前期比）



（図表2）ブラジル経常収支



（図表3）自動車・二輪車販売台数（季調済年率）



（図表4）消費者マインドの推移

